

---

## 休刊のお知らせ

---

平成18年から年1回、刊行してきた『国立女性教育会館研究ジャーナル』は、本年（平成21年）14号をもって休刊することになりました。

本ジャーナルの前身は「会館」創設20周年を機に平成9年に創刊された『国立婦人教育会館研究紀要』、平成13年の「婦人」から「女性」に名称変更による『国立女性教育会館研究紀要』です。そして平成18年に、開かれた学術雑誌としてのイメージを高め、より広く知られることを目指して「紀要」から「ジャーナル」へと名称を変更しました。

この間、創刊号から14号まで、それぞれの号の特集テーマは変わっても、雑誌の目的、編集方針は引きつがれ継続してきました。一つは「会館」が行う調査研究事業の成果を発表し、普及することであり、二つには広くジェンダーの視点にたった生涯学習の研究、実践に関わる国際的、学際的、実践的研究の進展を目指して、関係する領域の研究者や実践者に発表の場を提供することです。その方法としては特集論文の他に広く投稿論文を募り、専門家による審査を経て掲載を決定してきました。特に実践事例研究の発表の場としたことは、他にない特色でした。

本誌は依頼論文による特集、投稿論文、「会館」の調査研究事業、を柱にし、その他に海外の女性・ジェンダーに関する最新情報、書評、ジェンダーに関する研究や最新情報、本の紹介等で構成してきました。まとまっているという点、また学術研究としての発表の場があるという点でも貴重でした。平成20年に行った投稿論文掲載者のフォローアップ調査（羽田野慶子・河野梨穂子・渋谷典子・伊藤静香『本誌』13号）によると創刊号から12号までに213本の投稿があり、そのうち審査を経て掲載されたのは49本です。掲載率は23.0%、4本の投稿に対して1本弱しか掲載されていないことになり、それだけにレベルの高い論文が掲載されてきました。

この13年の間にジェンダー研究、女性教育実践をめぐる状況は大きく変化しました。ジェンダー研究を専門に行う機関や部署は増加し、紀要、ジャーナル等の専門誌の刊行も多くなってきました。また、学会誌等にもジェンダーに関する論文が多く掲載されるようになり、ジェンダー研究の発表の場が広がり発表の場として本誌は一定の役割を果たしたと考えています。加えて独立行政法人の見直し、予算削減のなかで、これまでの公募制にもとづく投稿論文を柱においた『国立女性教育会館研究ジャーナル』を休刊することにいたしました。

一方、男女共同参画を推進する学習実践は、ますます重要になり、それも女性を核におきつつも広く男性も、そして若年層から高年層まで男女共同参画の理解と行動が求められてきています。社会状況や生活、意識が複雑になり、キャリア形成や地域づくりなど実践課題が山積しているのが現状です。こうした状況に対応すべく、会館の事業や女性関連施設や団体等の実践にもとづく研究等を中心に、今後は『NWEC実践研究』として刊行する予定です。

これまでご尽力をいただいた編集委員の方々、執筆してくださった方々、投稿してくださった方々、購読いただいた方々に心から御礼を申し上げます。

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 神田 道子